わが市を語る 1

五所川原市（青森県）――五所川原市長 佐々木孝昌

心の通った思いやりのある市政推進を目指して

夏祭りに「立佞武多の館」から出陣し市街地を運行する大型立佞武多「暫（しばらく）」

豊かな自然と多彩な伝統文化が息づくまち

五所川原市は、青森県津軽平野のほぼ中央に位置し、古くから津軽西北地域の経済・医療・教育などの多方面にわたって重要な役割を担い、交通の要衝として多くの交流人口を抱える、当圏域の中心的都市です。

また、豊かな自然環境に恵まれ、悠久の歴史の中で育まれた多彩な伝統文化や芸能、地域に根ざした数々の個性豊かな祭りがあります。

さらに、青森三大ねぶたの一つで、高さ約23m、重さ約19tに及ぶ巨大な「五所川原立佞武多（たちねぶた）」を通年展示している「立佞武多の館」をはじめ、文豪・太宰治の生家として有名な「斜陽館」や中世北日本の重要港湾として栄えた「十三湊（とさみなと）遺跡」など、全国に誇る魅力的な文化・観光資源を有しています。

十三湖産ヤマトシジミをぜいたくに使った「しじみラーメン」

3地域の特色が織りなす市の魅力の発信

本市は、平成17年に1市1町1村（五所川原市、金木町、市浦村）の市町村合併により誕生し、それぞれの地域の人々が古くから守ってきた文化・魅力を大切にし継承していくとともに、3地域の特色を生かした地域づくりに取り組み、それらが織りなす彩り豊かな魅力を市内外へ発信するための施策を推進しています。

その取り組みの一つとして、本市のさまざまな特産物を全国の方にお届けし、魅力を直接伝えるツールとして「ふるさと納税」に注力してきました。

返礼品として、青森県の名産であるりんごや米に始まり、「金木の馬肉」、「十三湖産（じゅうさんこ）ヤマトシジミ」、「市浦牛」など、市の魅力あふれる特産品を直接県外の方に楽しんでいただいています。そのほかにも、市の特産品である果肉まで赤い「赤～いりんご」のジュース、りんごを原料としたシードルといった生産者の創意工夫による商品開発など、その取り組みが実を結び、県内でもトップクラスの寄付額となっています。これもひとえに、地域産業を支える生産者の方々と、市を応援してくれる多くの皆さまのおかげであると感じております。

また、本市発祥のりんご「トキ」を糖度15度以上のりんごのみを厳

太宰治著書「津軽」に登場する「りんご酒」を再現

台湾の市街地を走る「立佞武多」と「プレミアムトキ」のラッピングバス

選し「プレミアムトキ」として、一昨年、昨年と台湾で販売したところ大変好評を博しました。今後、「プレミアムトキ」を本市のブランド商品として海外でのさらなる販路拡大につなげてまいりたいと考えています。

そのほか、本市金木地域に、太宰の名作「走れメロス」にちなんだ観光物産館「産直メロス」が本年4月29日にグランドオープンし、地元食材や加工品の産地直売、地元の方々による手作りの惣菜や手芸品など、「金木」でしか味わえない魅力満載の物産の展示即売施設となっており、隣接する「斜陽館」や「津軽三味線会館」と共に観光エリアを形成し、観光に訪れる方々に大変ご好評をいただいています。

「だれ一人取り残さない持続可能な地域共生社会」の構築

急激に進む人口減少や超高齢化に伴い、人口定住対策、高齢者世帯の増加や老老介護など高齢者を取り巻く課題、また、子どものいじめやヤングケアラーの問題など、行政が取り組むべき課題が山積している中、私は「行政の根底にあるべきことは、心の通った思いやりのある行政サービスである」と考え、「だれ一人取り残さない」を根本姿勢として、市民に寄り添ったきめ細かな市政運営に取り組んでいるところであります。

特に、持続可能な地域社会の実現のためには、子育て世代や地域の未来を担う子どもたちが、本市で暮らすことに魅力を感じ、住み続けることが重要であると考えています。

子育て支援は未来への重要な投資であり、かつ健全な地域社会を構築する基礎であると考え、学校給食費や中学生までの子どもの医療費の完全無償化を実現するなど、子育て世代への経済的支援を積極的に展開し、「子育てするなら五所川原市で」と思えるまちづくりに取り組んできました。今後も、未来を担う子どもたちが、ふるさとを愛し、将来にわたっていつまでも住み続けたいと思えるようなまちづくりを進めていきたいと思っています。

さらに、今後の施策の柱として、急速に進む超高齢化社会を見据えた医療介護連携や元気な高齢者の活動・活躍の場づくりを進めるなど、高齢者が生まれ育った地域で健康で安心して住み続けられるよう「地域包括ケアシステム」を構築し、「健康長寿社会」の実現に取り組んでいきます。

子どもから高齢者、そして障害の有無に関わらず、全ての市民が生活の豊かさを実感できるよう「だれ一人取り残さない持続可能な地域共生社会」の構築に努めるとともに、市民が「良くなった」と実感できるような市政を推進し、市民一人一人が笑顔と誇りに満ちあふれる地域社会づくりのため、誠心誠意取り組んでまいります。

プロフィール

五所川原市長
佐々木孝昌

◆**面積** 404・18㎢
◆**人口** 5万1931人
◆**世帯数** 2万5640世帯

〔将来都市像〕笑顔と誇りに満ちあふれるまち・五所川原

〔まちの特徴〕豊かな自然環境に恵まれた、歴史や文化が息づくまち

〔市町村合併〕平成17年3月28日、五所川原市、金木町、市浦村（飛び地）の新設合併

〔特産品〕赤～いりんご、金木の馬肉、十三湖産ヤマトシジミ、市浦牛、桃太郎トマト

〔観光〕立佞武多の館、太宰治記念館「斜陽館」、津軽三味線会館、金木観光物産館「産直メロス」

〔イベント〕金木桜まつり、十三湖高原まつり、五所川原立佞武多、ストーブ列車運行、雪国地吹雪体験

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 2

中野区（東京都）

中野区長　酒井直人

人のつながりと多様性のまちで、自分らしく暮らす　中野

あらゆる個性を受け入れるまち

東京23区の西部、武蔵野大地の東端に位置する中野区。昭和7年に中野・野方町が合併して中野区が創設され、令和4年に区政90周年、憲法擁護・非核都市の宣言40周年という節目を迎えました。都心からの距離が近く、交通の便と買い物の便が良いまちです。

区の面積は15・59㎢で、23区中14番目の広さ。高度経済成長に伴い、人口の急増と宅地化が進み、住宅地として発展してきました。

若い世代の転入者が多く、近年では外国の方も急増しており、約120の国とさまざまな地域の人たちが、多世代にわたり暮らし、訪れ、活躍する、多様性にあふれたまちです。また、伝統的な文化・芸術活動が根付いている一方、お笑い、演劇、コンサートなどのエンターテインメントが活発であり、さらに漫画やアニメなどのサブカルチャーの宝庫として、その魅力を国内外に発信し続けているまちでもあります。特に中野駅周辺は、ポピュラー音楽やアイドルのコンサートホールとして有名な「中野サンプラザ」をはじめ、サブカルチャーの店舗が集積する「中野ブロードウェイ」、そして、多彩な飲食店街がある、にぎわいの絶えないエリアとなっています。

また、中野通りや哲学堂公園が桜の名所として親しまれているほか、中野駅北西の「中野四季の都市」に「中野四季の森公園」や業務・商業ビル、大学のキャンパスなどが誕生しており、変わらぬ良さと変わり続けるまちの両面が中野の魅力となっています。

沼袋氷川神社

中野ブロードウェイ

哲学堂と桜

「つながる はじまる なかの」三つのプロジェクトが進行

令和3年3月には、区民の皆さんとの協働で「中野区基本構想」を改定。「つながる はじまる なかの」を掲げ、10年後に目指す四つのまちの姿を明らかにしました。また、同年9月には、基本構想を実現するための5年間の総合計画となる「中野区基本計画」を策定し、三つの重点プロジェクトを定めました。

その一つは、「子育て先進区の実現」です。令和3年11月に開設した複合施設「みらいステップなかの」の中に、本年4月に児童

相談所を開設し、子どもや子育て家庭に対するセーフティネットを強化する取り組みを進めています。また、魅力ある公園や屋内施設の充実を図るとともに、学校・地域・事業者が連携して、子どもの学びを地域全体で支える環境を整備しています。

さらに、児童館機能の充実を図るとともに、子育て関連団体や若者の活動への支援など、地域全体で子育てを応援するための体制を整備していきます。

二つ目のプロジェクトは、地域包括ケア体制の実現です。支援を必要とする人への相談やコーディネート体制を充実し、多様な主体と連携したアウトリーチ活動を進めるとともに、引きこもりや精神保健相談など、複合的かつ専門性の高い課題へ対応し、解決につなげる体制づくりに努めています。

東北復興大祭典

また、高齢者、子ども、障害のある方、認知症の方など本人の意思や権利などが守られる仕組みづくりを進めるとともに、支援が必要になっても孤立せず、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境の整備とネットワークの強化を図っていきます。全ての人に居場所があり、無理なく見守り、支えあう地域づくりを実現します。

三つ目のプロジェクトは、活力ある持続可能なまちの実現です。その核となるのは、中野駅周辺の再整備。現在、11のまちづくり事業が進行しており、令和8年には新しい中野駅が誕生し、まちの内外をつなぐ橋上駅舎と南北をつなぐ歩行者専用道路が完成します。シンボルタワーをはじめとした中野駅新北口駅前エリアの再整備は、令和11年の竣工（しゅんこう）を目指して進めています。中野サンプラザは令和5年7月に閉館しますが、そのDNAを継承した、5000人規模の新たな魅力あるホールを整備します。また、令和6年5月に中野区役所は新庁舎へ移転します。

さらに、有施設運営における脱炭素化の推進や環境配慮型公共施設の建設・整備、再生可能エネルギー設備の導入支援などに取り組み、脱炭素社会の実現を見据えたまちづくりを展開していきます。

財産は「人」。協働・協創のまちづくり

私は、中野の最大の財産は「人」であり、それが強みであると確信しています。以上の三つのプロジェクトは、区民の方や事業者の皆さんと中野区が協働・協創することで初めて実現できるものです。子どもたちが健やかに成長し、区民の皆さんが安心して暮らし続け、さまざまな人が活躍することができる中野を目指し、対話に一層努め、区政運営に全力を尽くしていきます。

プロフィール

◆面積　15・59㎢
◆人口　33万4273人
◆世帯数　20万9364世帯

〔将来都市像〕①人と人がつながり、新たな活力が生み出されるまち
②未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまち
③誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまち
④安全・安心で住み続けたくなる持続可能なまち

〔まちの特徴〕約120の国とさまざまな地域の人たちが、多世代にわたり暮らし、訪れ、活躍する、多様性にあふれたまち

中野区長
酒井直人

〔特産品〕つけめん発祥のまち

〔観光〕中野ブロードウェイ、中野サンモール商店街、中野レンガ坂、中野サンプラザ、哲学堂公園（国の名勝）、中野四季の森公園、新井薬師梅照院（ばいしょういん）、中野沼袋氷川神社、童謡「たきび」と垣根の発祥の地、徳川五代将軍綱吉が「生類憐みの令」を出し、江戸の野犬を収容するための「お囲い」を今の中野駅周辺に作った

〔イベント〕中野チャンプルーフェスタ、中野駅前大盆踊り大会、中野にぎわいフェスタ、東北復興大祭典

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 3

宮津市（京都府）

宮津市長　城﨑雅文

「日本三景 天橋立」と青い海、緑の山に抱かれた宝あふれるまち

宮津市は、京都府の北西部に位置し、南部と北部が特別名勝「天橋立」の砂州によって連なる特異な地形を有しています。また、海岸線や大江山、世屋高原など貴重な自然資源が「丹後天橋立大江山国定公園」に指定されており、海と山の自然に恵まれた宝あふれるまちです。

日本三景 天橋立

幅約20～170m、全長約3・6kmの砂州に大小約6700本の松が茂っており、その形が天に架かる橋のように見えることから「天橋立」の名が付いたとされています。

平安時代には、平安京の貴族の邸宅に天橋立をモデルとした庭園やびょうぶなどが仕立てられ、和歌の歌枕となるなど、都人の憧れでした。

天橋立を北側から見た眺め

中世に描かれた雪舟「天橋立図」（国宝）には、天橋立と周辺の社寺が一体となった霊場の姿を見ることができます。江戸時代に庶民の旅が盛んになると多くの人々が訪れ、松島（宮城県）、厳島（広島県）とともに日本三景の一つとなりました。

現在も日本を代表する観光地として本市の経済を支え、新型コロナウイルス感染拡大前は、年間観光客が約300万人を数えました。

展望所である傘松公園や天橋立ビューランドからの眺めは、天橋立観光の代名詞となっていますが、近年はレンタサイクルなどで天橋立を走り抜ける観光客も増え、両側を海に囲まれた「白砂青松」の景観を満喫することができます。また、周辺の籠神社、成相寺、智恩寺の参詣や、シーカヤックなどのアクティビティを楽しむことができ、夏場は海水浴客でにぎわいます。

名勝100年、特別名勝70年

美しい天橋立の景観は、これまで何度も危機に直面してきました。特に、昭和30年代には、河川の護岸工事により天橋立に供給される砂礫が減少し、砂浜の浸食が進みました。現在、京都府によってサンドバイパス工法が実施され砂州を維持しています。また、近年は土壌の富栄養化により広葉樹が進出し、松林の生育に影響が出ており、広葉樹や松の計画的な伐採を行っています。

天橋立 名勝100年・特別名勝70年

名勝100年・特別名勝70年記念ロゴマーク

こうした中、昭和40年には民間団体として天橋立を守る会が設立され、「クリーンはしだて1人1坪大作戦」などの清掃活動が、多くの市民の参加に支えられ行われています。平成21年2月には天橋立を世界遺産にする会が設立され、美しい天橋立を次の世代に引き継ぐため、天橋立の新しい魅力の発掘や普及啓発活動が行われています。

さらに、宮津市および与謝野町では、平成28年3月に「美しく豊かな阿蘇海をつくり未来につなぐ条例」を制定し、天橋立に囲まれた阿蘇海の環境保全に努めており、同年10月には宮津湾、伊根湾が「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟しました。

まさに、天橋立の魅力は、官民協働での保全の努力により高められてきましたが、天橋立の保全の原点を考える際、大正11年の名勝指定は大きな意味を持ちました。史蹟名勝天然紀念物保存法に基づくもので、三保松原（静岡市）などとともに第1号の指定でした。さらに、昭和27年には文化財保護法に基づいて特別名勝に指定され、日本を代表する景勝地として高く評価されています。

本年度は、名勝指定から100年、特別名勝指定から70年の節目の記念事業を展開しています。先人たちの努力の歩みを振り返り、将来の天橋立を考える機会となることを願っています。

共創のまちづくりを ～「橋をつなごう」～

10年間を計画期間とする「第7次宮津市総合計画」を昨年度策定しました。市民にも親しみをもっていただけるよう「橋をつなごう」をキーワードとしています。宮津から外へ、まちの魅力が広がり、外から宮津へ新しい人が渡ってくる。お金だけでなく、文化、知識、経験も行き交うことで豊かになっていく。そんな橋のようなまちを、市民と一緒になって共に創っていきたいという思いを込めています。

人口減少が進行する中、レンタルオフィスなどを有する「前尾記念クロスワークセンターMIYAZU」をワーケーションなどの中核拠点として、都市部人材と地域住民との交流の場の創出や副業プロ人材の活用などにより、関係人口の創出・拡大を図ってまいります。また、天橋立名勝100年、特別名勝70年を契機に、改めて私たちの宝である天橋立が持つその魅力や素晴らしさを、市民の誇りとして共有するとともに国内外へと発信し、人口減少時代にも選ばれるまちづくり、市民みんなが活躍できるまちづくりを市民と共に進めてまいります。

前尾記念クロスワークセンター MIYAZU内観

プロフィール

◆面積　172・74㎢
◆人口　1万6875人
◆世帯数　8380世帯

〔将来都市像〕共に創る　みんなが活躍する　豊かなまち　〝みやづ〟

〔まちの特徴〕特別名勝「天橋立」をはじめ、海や山など豊かな自然に恵まれたまち

〔特産品〕丹後とり貝、オイルサーディン、オリーブ、安寿みかん、アカモク、ちくわ、知恵の餅など

〔観光〕北前船寄港地（日本遺産）、金引の滝、天橋立ビューランド、知恩寺、籠神社、成相寺、笠松公園

〔イベント〕宮津燈籠流し花火大会、市民総踊り大会、赤ちゃん初土俵入り、宮津祭、天橋立ツーデーウオーク

宮津市長
城﨑雅文

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 4

名護市（沖縄県）

名護市長　渡具知武豊

未来へつなぐまちづくり
～つなぎ、創る・しなやかな未来へ～

名護湾（漁港）と中心市街地

沖縄県本島北部に位置する名護市は、1970年に5町村（名護町、羽地村、久志村、屋部村、屋我地村）が合併し誕生しました。山々と三方に広がる海に囲まれた本市は、北部地域の中核都市の役割を担い、豊かな自然と人々の暮らしが調和した「あけみおのまち」として発展してきました。

子育てしやすく、働く女性を支えるまちづくり

本市では、子育て環境日本一を目指し、保育料、子ども医療費（18歳まで）および学校給食費の三つの無償化を実現しました。また、子どもたちが楽しく遊べる場として、大型遊具の整備を計画するとともに、食べ物アレルギーに対応した学校給食センターの整備を進めています。

働く女性を支える施策としては、多世代交流施設という高齢者の生きがいづくりや、児童センターの役割を併せ持つ複合施設の中で、プライバシーを確保しながら妊娠・出産・子育てなどの相談ができる場所を設け、女性に寄り添う支援を行うことに加え、女性経営者の育成支援などスキルアップにつながる支援も進めています。

誰もが安心して暮らせるまちづくり

現在本市では、一般廃棄物処理施設の老朽化のため、ゴミの16種類分別を行っていますが、市民からはもう少し簡易的な分別にしてほしいという声が上がっています。解決するためには、新たなゴミ処理施設の整備が必要ですが、莫大な整備費が難点となり長年の懸案事項となっていました。この度、国との調整により整備費のめどが立ち、令和6年4月の稼働に向け整備を進めています。完成した暁には、ゴミ分別が大幅に簡素化される予定です。

ゴミ処理場パース図

また、本市の主要な公共交通であるバスの交通網をより充実させるため、コミュニティバスの本格運行に向けた実証実験を計画しています。この取り組みでは、学生、未就学児、高齢者や障がい者に対し、運賃の割引や無償化を検討しており、より市民が使いやすい公共交通網となるよう検証していきます。

コミュニティバス　東西線バス車両

市全体の均衡ある発展

5町村が合併した本市では、中心市街地のある旧名護町地域を除き、市全域をバランスよく発展さ

サッカー・ラグビー場鳥瞰図

せることが重要です。羽地地域と久志地域の交流拠点となる「羽地の駅」や「わんさか大浦パーク」では、施設の拡充に取り組んでいます。羽地の駅では、人気アクティビティとなっているシーカヤックの利便性向上のため、施設に隣接している河川から利用できるよう改修を進めています。また、わんさか大浦パークでは、利便性を高めるため、物産販売コーナーの配置変更と休憩スペースを増やす整備を進めています。

屋部地域では、地域づくりの拠点として、子どもの居場所や地域住民の憩いの場となり、防災拠点としての機能も併せ持つ地区センター（支所を併設）を整備しています。

屋我地地域では、国立療養所「愛楽園」の未利用部分の有効活用として、学校などの誘致について検討を進めています。誘致した学校などを介して地域と愛楽園との結び付きを強め、地域全体の活性化につなげたいと考えています。

にぎわいを取り戻すまちづくり

本市は、燦々（さんさん）と降り注ぐ太陽やきれいな夕日が映える名護湾を有しています。その沿岸部は約20㎞にわたって国道が走り、漁港やビーチ、公園などが整備されているほか、中心市街地も隣接しています。

現在本市では、かつて多くの人々でにぎわった名護市を取り戻すため、名護湾沿岸の一体的なまちづくりを進めています。

特に名護漁港に隣接した中心市街地エリアでは、北部地域の玄関口の役割を担うため、バス、タクシー、レンタカー、高速船、自転車など、多様なモビリティを集結させた公共交通結節機能を有し、飲食、物産、情報発信、防災、広場などの機能を複合させた総合交通ターミナルの整備により、にぎわいを創出するまちづくりを進めてまいります。そのまちづくりには、日本唯一の経済金融活性化特別地区である本市の利点を生かし、デジタル技術を活用した「スマートシティ名護モデル」の実現を目指してまいります。

さらに、隣接する21世紀の森公園では、公民連携による魅力向上のため、パークPFIの導入に向けた取り組みを進めるとともに、プロチームの合宿が可能な野球場（令和2年1月完成）とサッカー・ラグビー場（令和6年4月全面供用予定）により、北海道日本ハムファイターズの春季キャンプに加え、サッカー・ラグビーのプロチームのキャンプ地としてスポーツコンベンションを活性化させることで、多くの人が集まる名護市にしていきたいと考えています。

これまで先人たちが積み重ねてこられた歴史・文化を大切にしながら、めまぐるしく変化する社会情勢に適切に対応し、引き続き、沖縄本島北部地域の中核都市としての責任を担う所存です。これからも名護市民のために、真に住みよい名護市を目指しまい進してまいります。

プロフィール

◆面積　210・94㎢
◆人口　6万4193人
◆世帯数　3万1643世帯

〔将来都市像〕つなぎ、創る・しなやかな未来へ

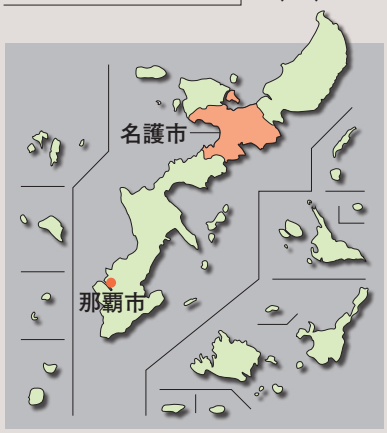
〔まちの特徴〕緑深い山々と三つの海に囲まれた山紫水明の地にあり、先人たちが築いてきた歴史・文化が息づくまち

〔特産品〕アグー豚、小菊、ゴーヤー、シークヮーサー、ウコン、タンカン、かぼちゃ、ソーキそば、オリオンビール

〔観光〕津嘉山酒造所、ひんぷんガジュマル、轟（とどろき）の滝、ネオパークオキナワ、オリオンビール工場、嵐山展望台

〔イベント〕名護さくら祭り、NAGOハーフマラソン、名護夏まつり、名護市長杯争奪全島ハーリー大会、ツール・ド・おきなわ

名護市長
渡具知武豊



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。